

## 船井情報科学振興財団 第 7 回留学報告書

イエール大学にて化学&環境工学博士課程 4 年生になります兼田真周です。1 年目はコロナや新生活への順応で苦労し、2 年目は 1 年目の苦労がただ数倍増しただけに感じられていましたが、3 年目は今までの苦労が跳ね返ったように、不思議とどこか気分が吹っ切れた心地で過ごしました。第 7 回目の留学報告書では、2023 年 1 月から 8 月までの出来事をご紹介します。

---

### 学会と実験と執筆

学会は学外の人と議論ができる機会のみではなく、移動を伴うためリフレッシュになり、また参加している同じ研究室の人とも普段より仲良くなることができます。このため毎年一つは学会に出ることを目標としており、学会の日程に合わせて実験の順番や予定を立てることが多々あります。学会に参加する事が実験の大きなモチベーションになっていると感じます。

今年は研究進捗報告会のため 2 月にコロラド州と、国際学会のため 7 月に千葉県へ行きました。一つ目の学会は幸運が重なり、本来なら 2 人の指導教授が参加し報告をするはずでしたが、忙しいからということで代わりに派遣され、口頭発表とポスター発表を行いました。エネルギー省管轄のリサーチセンター主催だったためどのグループも普通は PI が来て発表していたのですが、自分たちだけ学生が発表者ということで恐縮でした。会議では共同研究者やその他のプロジェクトリーダーたちと親睦を深める事ができ良い経験になりました。二つ目は 3 年に一度開催される水処理・ガス処理膜に関する国際学会です。今回は千葉県の幕張にて今夏行われました。参加のために提出した要旨が口頭ではなくポスター発表で受理され、一時は先生から参加を渋られていましたが、結局なんとか口頭発表に切り替えられ無事に出席することが出来ま

した。学会はとても良く、実りある機会に繋がりました。発表の質疑応答は活発で、様々な地域 of 研究者だけではなく、国内企業の担当者と意見交換することができ、また研究グループのアラムナイたちと再会することも叶い、まとめて充実した会議になりました。

実験は主にこれらの学会で発表する内容を拵えるためにプロジェクト毎に進めました。見切り発車で着手した部分も多くあったのですが、周りとの議論を重ねて軌道修正しながら推し進めることができたと思います。

執筆は大変なのでいつも後回しにしていたのですが、先生から「killer instinct を持って臨むべし」と言われ本格的に原稿を準備し始めました。実際に3人のPIからコメントの嵐を受け、とても骨の折れる作業でしたが、実験やスライド作成を合間に挟み気を紛らせながら進めています。ここでも周りの友達に助けられ、世間話など気分転換に付き合ってもらっています。

## 余暇と普段の生活

去年は下り坂を自転車に乗って車に突っ込みましたが、今年は友達車で信号待ちしていたところ後ろから追突されました。幸い大事には至りませんでした。今後もっと気を付けて過ごしたいです。春の学内サッカー大会にて工学部チームとして初優勝することができました。途中延長戦になりPK戦の末勝ち進んだ試合もあったので喜びは格別でした。今秋のリーグ戦も健闘したいと意気込んでいます。最近はおフィスマイトから誘われたスカッシュに挑戦しています。大学ジムにあるコートで経験者に囲まれながら練習しています。今学期は久しぶりに日本語パートナーのTAを再開し、音楽院にてピアノ授業も受講する予定です。学内日本人会では新しい博士課程学生を2人代表として巻き込めたので、運営管理が随分と気楽になりました。

## おわりに

3年目後半は学会と実験、執筆の3本立てに追われながらも充実した半年になりました。その中で周りの人と環境に恵まれていることを改めて実感することができました。先週から新学期が始まりキャンパスはまた活気に溢れています。引き続き4年目前半も尽力していきたいと思っています。末筆になりますが、いつも船井情報科学振興財団の皆さまからの温かいご支援を有難うございます。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。



左上から時計回りに卒業以来初めて訪れた冬の北海道大学、共同研究を行っているオークリッジ国立研究所チームの PI と研究進捗報告会（コロラド州）、春学期の学内サッカー大会で所属している工学部チームが悲願の初優勝（準決勝の PK 時）、国際学会で研究グループのアラムナイたちをランチにお蕎麦屋さんへ連れて行った時のもの（幕張メッセ）で、どれも楽しい思い出ばかりです。